

研修レポート

※ 生薬とカーボンオフセット(J-VER)事業を 研修して

報告者 丸山 あつ子

● 視察先

- 薬用植物園
- J-VERカーボンオフセットセミナー参加
- J-VER創出森林と高知おとよ製材(株)

● 視察日程 平成26年1月8日
～10日

● 視察参加者 松岡清悦・柴田正高・丸山あつ子

● 1日目、午後から高知県立牧野植物園に到着。ここは高知生まれで「日本の植物分類学の父」と称された植物学者牧野富太郎博士の業績を顕彰するため昭和33年開園された植物園で、総面積17・8haの園地に野生植物など約3000種の植物があり、当園で研究や普及に取り組んでいる薬用植物を中心に漢方薬や民間薬として用いられる薬草・薬木を見学した。当日は、あいくの雨であったが、北園薬用



担当者から熱心な説明を受ける(左)、多種多様な生薬(右)



植物区として自然の地形をうまく利用して植栽されており、草木は秋田でも身近に自生している種類もあったが、研究資料として欠かせない国内外の薬用植



カフェ「喫茶 座文」の個性あふれるメニュー

向及びカーボン・オフセットについて」を聴講した。

事例紹介で、カルビー(株)と当町農林振興課の木藤主査の発表があり、これからはJ-VERの取り組みを通じて、企業とのパートナーシップで自然再生を図り、林業活性化とCO2の削減をめざし進む方向であり、地球温暖化対策の一環と感じたところである。

なる植物を活用したコーヒーを使わない生薬カフェ「喫茶 座文」を開いており、そこに立ち寄った。様々な生薬の「お茶」・「生薬カフェ」が作られており、店内は生薬の香りがただよい、盛況で地域の町おこしを担っているのがうなずけた。当町でも何かできないかなと思ったところだ。

2日目は、市内会場で行われたカーボン・オフセットマッチングのセミナーに参加。高知県の主催で挨拶の次に環境省地球温暖化対策課の三好一樹室長補佐の講演「地球温暖化対策の動



八峰町のブース



おとよ製材(株)(左)と創出森林(右)



3日目は高知県長岡郡大豊町へ。高知県職員と共にJ-VERクレジットの先駆町であり、創出森林を視察。人口4215人で65歳以上比率が55%の「限

物標本の管理室も見事で、皆で感嘆し、足元が暗くて見えなくなる程に時間を大幅にオーバーして案内して下さり、感謝しながらも盛りりの季節には是非もう一度訪園し、じっくり観察したいと思ったほどであった。

理学博士、薬学博士の女性2人と男性担当職員の熱心な説明を受け、当町で取り組んでいる生薬試験栽培の例を話したりして、会談がはずんだ。地元の大薬学部機関と提携して研究開発をし、ある程度の量産をめざすには、ブランドづくりをして流通商品の価値を高めるべきで、生薬栽培は種子と株の確保がまず第一で、10年は先を見なければならぬとのことで、息の長さとその大変さを通切に感じたところである。

当町も生薬栽培事業を取り組んだからには何としても見える姿になるよう皆で努力しなければ...と話した。

生薬研究グループが、生薬に

入して森林の環境財・経済財の両面から取り組み「環境にやさしい100年の森づくり」を進めているとの説明であった。

大型製材工場「高知おとよ製材(株)」へ。大豊町でも出資しており、原木消費量10万m³を予定し、若者の雇用を大いに進めていた。

当町も83%が山林で、杉が大半を占めており、J-VERの取り組みは熱心である。当町に適した林業活性化の振興策にはいったい何があるのだろうかと話しながら、夕方空港へ向かい帰路に着いた。

【用語説明】

※カーボンオフセット(J-VER)とは、日常生活や経済活動において避けることができないCO₂等の温室効果ガスの排出について、排出量に見合った温室効果ガスの削減活動に投資すること等により、排出された温室効果ガスを埋め合わせるといふ考え方。

